

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000687		
法人名	特定非営利活動法人 敬愛		
事業所名	グループホーム なごやか		
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町大字上江1940-2		
自己評価作成日	平成22年6月27日	評価結果市町村受理日	平成22年9月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4572000687&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成22年7月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の理念の下、「いっしょに暮らす、いっしょに語る、いっしょに笑う」というスローガンに従い、毎日笑顔、笑い声の絶えないホームを目指している。
職員と利用者の関係が、介護する側・される側という関係ではなく、利用者のその人となりを尊重した生活が、当事業所においても可能な限り継続できるようにと努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは大きな道路に沿っており、入口はすぐ近くの小学校の通学路で交通の便や居住環境に恵まれている。地域に当グループホームを知ってもらう工夫の一つとして「勝手に見守り隊」と称し利用者と職員が通学路に出て小学生・地域住民との交流を図る活動を行っている。「子どもの力はすごい、利用者の笑顔が違う。通りかかった大人もあいさつしてくれる」など成果があがっているようである。また、運営者や管理者と職員、あるいは職員同士の意志疎通が日常的に十分行われており、それが利用者へのより良いケアサービスに反映し、利用者の表情は明るく穏やかであった。災害対策・防火対策にも力をいれ、調理はガスを使わず電気のみを使用している。一年半前に管理者が変わり、よりわかりやすい記録の工夫やいかに地域とかかわることができるかを模索し続けるなど、全般にわたりホームへ新しい風が吹き出している様子であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自に理念・方針を作り、またわかりやすくまとめたスローガン「いっしょに暮らす、いっしょに語る、いっしょに笑う」を共に事業所内に掲げ、実践している。	事業所の運営方針を踏まえこれを簡潔に表現した理念を掲げている。管理者も職員もそれを体現すべく実践への努力や工夫をしている。	運営方針には地域とのつながりを深める活動をするを明記し、活動もその方向に向かっているが、理念の中にもそのことを表現することが望ましい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、自治会に加入しており、また毎月歌・踊り・読み聞かせ等のボランティアの方に来ていただき交流している。	地域とのつきあいを強める新しい試みとして「勝手に見守り隊」活動、あるいはすぐ近くの小学校との連携申し入れ等を進めている。効果として地域の人々もグループホームの存在を認識しつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所のすぐ隣に小学校があるため、「勝手に見守り隊」と称し、小学生の下校を見守らせていただいている。また近隣の方を招待し運動会(事業所の概要の説明と理解、災害時の協力をお願いを含む)を企画したが、口蹄疫のため延期中である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、利用者の状況・サービスの実施状況・評価への取り組み等について報告や意見交換をし、サービスの向上に努めている。	2か月に一度の頻度で公民館で開催しており、事業所の活動内容、外部評価への取り組み等について報告している。特に視覚に訴える(写真をテレビで見る)工夫をしており、資料も豊富である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や入所者の移動時・申込時など、入所状況や他施設の状況など連絡を密にしている。また、町の社協が中心となった作品展への出品も実施した。	運営推進会議にも参加してもらい情報交換しているが、それ以外にも必要に応じて状況の報告や連絡を行い協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が拘束について理解しており、拘束しないケアに取り組んでいる。身体に危険が及ぶ場合はミーティングで話し合いを重ね、家族とも話し合いを持ち工夫しながら対応している。	全職員が身体拘束の範囲や意味を理解しており拘束のないケアに取り組んでいるが、悩ましいケースもある。家族との話し合いを持ち工夫しながら頑張っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで虐待について話し合い、各職員とも利用者に対する言動には注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要最小限の知識は持っているが、制度の必要なケースが発生していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、運営者・管理者・家族立会いの下、一つひとつ十分な説明を行い、理解・同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に意見・要望を表せる雰囲気作りに努めており、ケアプラン説明時には必ず希望・苦情の聞き取りを実施している。また運営推進会議時にも意見・希望を聞く機会を設けている。	玄関に「ご意見箱」が置いてあり、意見反映の受け入れ態勢が感じられる。ケアプラン作成時に家族の意見を聞いたり、運営推進会議では外部の意見等を聞く機会とし、運営の改善に努めている。	意見要望等の受け入れ態勢は整っているが「相談・苦情に対する書式」が整備されていなかった。情報の共有や職員の勉強のためにも書式の作成が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のミーティング時に、必ず職員の意見や提案を聞き、検討している。	月に一度の業務カンファレンスや申し送り日誌による意見の表出が行われている。また、職員同士の意見交換から、運営の改善がなされた例が幾つかある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の希望や勤務状況を把握し、なるべく働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のケアの力量を把握し、研修を受けられる機会を確保したり、働きながらトレーニングしていくことを支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会に参加したり、町社協が中心となった作品展へ出品することで、交流する機会ができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より事前調査等を通して、また入所時にも困っていること・不安なこと・希望等について聴き、入所されてからは、不安等を表出しやすい雰囲気作りに努め、心身の変化にも注意を払っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の事前調査・入所時の説明時等を通して、不安・希望等の聞き取りをしている。また初期は特になるべく連絡を密にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や相談時に状況を聴き、その内容に応じて、他のサービス利用も視野に入れた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活において、利用者・職員が清掃や食事のかたづけ・洗濯物たたみ等協働したり、一緒に食事やレクリエーションをすることで、良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には利用者の様子を伝えるとともに、面会時には利用者と家族の時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出・外泊については自由であり、その他電話もしていただいている。また年賀状を出す取り組みも実施した。	関係の深かった場所や人間関係を継続するための努力や取り組みは行えているが、なじみの人も高齢となっている状況で、今後の取り組みに苦慮している現状にある。	利用者一人ひとりに、生活歴があり、そこには友人、知人、大切な場所があり、その関係を断ち切らない支援を期待したい。今まで以上にそれを引き出す仕組みの検討が望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的に食事・おやつもレク活動も一つのテーブルを囲み過ごしており、なるべく関わりを持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者の様子を電話で伺ったり、訪問したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望の把握に努め、またミーティング時に利用者個々にとって何が一番幸せかを考え、検討している。	声かけをまめに行い、思いを声に出して返してもらうなど、一人ひとりの思いを引き出す工夫をしている。また、夜間に寄り添ってじっくり思いを聞くなどの努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や入所時等に、本人や家族から聞き取りをしたり、日々の会話の中から聴かされたり、把握することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察や、毎日の申し送り・記録・ミーティング等で、状態を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングにて一人ひとりの現状と問題点・その問題に対するケアの方法について検討し介護計画を作成している。	月に一度の業務カンファレンスで、一人ひとりのその人らしい暮らしをしてもらうように努めている。ケア計画の見直しの際には、家族の意見も聞きだしたりしながら、悩みつつケアプラン作りをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は利用者個々に記録しており、情報は共有されており、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの支援を考えると、必要に応じて、介護保険サービスに限らない様々なサービスについて家族とともに取り組みたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアの訪問・小学校の下校見守り・災害時の近隣への協力体制等、地域の方々との協力の取り組みをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が以前よりかかりつけ医を持っている場合は、変更せず適切な医療が受けられるように連携を取っている。	この地域出身の利用者が多く、一部の方以外は以前からの掛かりつけ医がいる。変更した場合も支障なく受診ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師がおり、日々の健康管理に努めており、主治医とも連携を取り、適切な医療・看護を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供し、また早期退院できるよう、安心して退院できるよう病院との情報交換や相談できるような関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についての指針に沿い職員間で検討しているが、現在まで対象となる利用者がないため具体的取り組みはなされていない。	重度化や終末期に対するホームとしての指針は作ったが、家族の実感が薄い面もある。さらに時間をかけて充実していく考えである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急蘇生の講習を受けているが、定期的訓練はなされていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て定期的に通報訓練・避難訓練に取り組んでいる。また運営推進会議等を通して近隣の方の協力体制もお願いしている。	特に火災予防に力をいれ、調理にもガスは使用しない。消防署の協力を得て「夜間想定」の避難訓練もしている。近隣の人々による支援体制もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりについてプライバシーを損ねるような言動については極力注意を払って接している。	一人ひとりの人格の尊重が第一と考えてケアをしている。日ごろの何げない言動にも極力注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り本人が希望を表出を出来るような言葉かけをし、納得しながら過ごせるよう援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にはホームの日課に沿って過ごしていただいているが、本人の体調や気分に沿って対応したり、希望があれば極力対応できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容に関しては、定期的に美容師のほうもんがある。もちろん希望があれば外の店に行くことも可能。また外出時等には着るものの相談をして外出着に着替えたり、口紅をひいたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みの把握はしており、また季節の物を取り入れたり、ホームの畑で出来たものを入れたり、リクエストに応えたり、一緒に楽しんで食事やおやつ・片付けをしている。	高齢化に伴い年々ADL(日常生活動作)の低下がみられるが、例えば梅のヘタとりやインゲンの筋とりなど、できることはしてもらい楽しく食事ができるように努めている。季節感を大切に食事にも心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量のチェック・水分量のチェックまた排泄のチェック・毎月の体重チェックを実施しており、また咀嚼・嚥下に応じた食事を工夫したり、必要に応じて水分摂取・捕食等対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日毎食後、利用者それぞれに応じて、口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は全ての利用者がトイレで排泄できるように、声掛け・誘導・介助の支援をしている。	共用のトイレに「排泄チェック表」が作られており、利用者ごとの排尿・排便の状況（パターン）が一目でわかる工夫がなされている。これにより昼間の排泄はトイレでできるようになってきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックを実施し、食事の工夫や水分摂取、また運動等の実施、必要に応じて下剤の服用等援助している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週に3回の入浴を実施しているが、入浴拒否が強い方等については、必要に応じて気分が良い時に実施している。	2名で入浴介助するケースが増しており、利用者本人の入浴の自由度が小さくなっている現実があるが、入浴を好まれる方への対応は懸念がない。入浴を好まれない方の誘いかけの工夫をいろいろしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせ昼寝をしたり、ソファーでくつろいだりしている。また夜間不眠の方は、日光浴や外気浴・運動などの取り組みをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬についてほぼ理解しており、その内容についていつでも確認できるようファイルに綴じている。また変更等があった時は連絡ノートに記載し、情報の共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	清掃やテーブル拭き・洗濯物たたみ等の手伝いをしていたり、歌の時にリーダーになっていたたり、行事などの挨拶をされていたり、入所者それぞれの得意分野で活躍できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日は、外気浴・日光浴を兼ねて散歩や庭に出たりしている。また家族の協力を得て、コスモス見学に出かけたりしている。	事業所の建物周辺が散歩コースになっており、できるだけ外気に触れる支援をしている。年に一度は家族やボランティアの協力を得て、全利用者とともに大掛かりな外出を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理を出来る方が少なく、お金を所持している方は現在いない。しかし家族よりお金を預かり、必要に応じて使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話の取り次ぎをしている。また年賀状を自宅等に出す取り組みを実施した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は気持ちよく過ごせるよう清掃し、季節感を感じられるよう花や飾りを取り入れている。また日々の写真コーナーも設置している。	共用空間は明るく落ち着いた雰囲気である。季節感のあるさりげない飾りつけや活動時に撮った写真などが、手書き文字入りで貼られている。大きな液晶テレビと空気清浄機が印象的であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席で会話を楽しんだり、ソファでテレビを見たり、自由に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものが持ち込まれており、レクリエーションで作成したカレンダーや、写真・誕生日の色紙などを飾っている。	居室はすっきりしており、使い慣れた家具、自作のカレンダーなど落ち着きのある趣が感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーであり、手すりもあり、車椅子対応のトイレもあり、出来るだけ自立に向けた支援をしている。また必要に応じて大きな字の表札を掲げたりしている。		